

大分市中国中部投資貿易博覧会ミッション報告

大分市 商工労政課

2008年4月26日から武漢市で開催された「第3回中国中部投資貿易博覧会」にあわせ、大分市から企業9社を含む19名で構成された「大分市中国中部投資貿易博覧会ミッション」が武漢市を訪れました。博覧会への出展・視察のほか、武漢市企業への訪問・商談などを行い、新たなビジネスチャンスを求め活動しました。



ミッション参加者

10万人が参加した第3回中国中部投資貿易博覧会

中国中部地区振興、東部沿岸部からの技術、資金流動の活発化をテーマに、中国国務院及び中部6省（山西省、安徽省、江西省、河南省、湖南省、湖北省）主催で行われた博覧会。今回は湖北省の省都である武漢市で開催されました。第3回を迎えた同博覧会は、過去最大規模の10余万人の参加者を集めました。

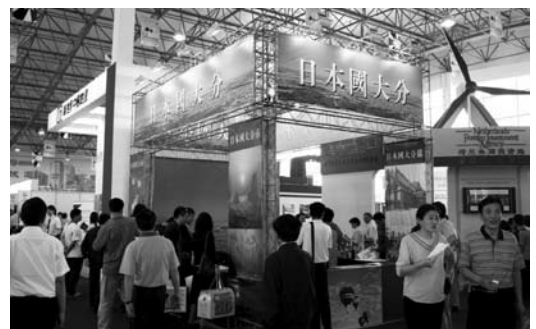
また、博覧会行事として、中国全国市長会などが主催し開催された「持続可能な発展」をテーマにしたフォーラムに釘宮磐大分市長が出席し、「大分市の市民協働のまちづくり」を中心に紹介しました。



博覧会場外観



フォーラムで発表する釘宮大分市長



大分ブースの様子

県と大分市が共同で観光物産ブース出展

県と大分市は、共同でブースを出し、大分の観光と物産を紹介しました。観光の紹介では温泉への関心が特に高く用意していたパンフレットが足りなくなるほどでした。物産の紹介は商品PRが目的でしたが、日本酒・焼酎の試飲をしたところ大好評で販売代理店の申込みもありました。

美容や竹製品関係で個別商談

具体的な商談案件として、中国の美容技術向上のためのパイプ作り、竹製品の生産委託の可能性調査などがあり、美容については将来の化粧品の輸出を視野に入れた人的交流が検討され、竹製品の生産委託に関しても商談翌日に早速サンプルが提示されるなど現地企業の積極性が見られました。

県産品輸出の武漢側の受け入れ企業を求めて

武漢への商品輸出に関しては、特に物流や決済代行などに課題を抱えています。今回のミッションでは、県産品に興味のあるという外国の商品を取り扱っている地元企業を訪問し、3つの店舗の見学や具体的な協議をすることができました。今後も協議を深めていき、大分の企業の皆様にとってさらに参入しやすい環境作りを進め、武漢事務所並びにジェトロ大分等関係機関と連携し決め細やかな支援を目指したいと考えます。



外国商品専門店を視察



協議風景

参加者の声



薬師寺氏（右）

株式会社マイダスコミュニケーション
薬師寺 千恵

初めての武漢でした。ゆったりと流れる揚子江。海のような湖。街中のオブジェ。博覧会開幕式のステージ。各出展ブースのサイズ。そこから発するいろんな音。とにかく

全てが大きい！その大きさの中で住まう人々が発する熱気も大陸級。何しろ絶対的な数が多い。全人口の1割にしか満たない超富裕層を対象にしたビジネスだって、十分ビッグなビジネスになるのです。

成熟しきった日本の市場にはない、計り知れないビジネスの可能性を感じました。

今何かと社会の関心を集めている中国ですが、テレビや新聞の中の話ではない、ビジネスの市場の一つとして、より身近な国になりました。これから、中国という国、武漢という街にますます注目していきたいと思えます。



東風HONDA工場見学



徳永氏

大分ベンチャーキャピタル株式会社
代表取締役 徳永 淳一

今回のミッション参加にあたっては、弊社が具体的に取組もうとしている投資先企業の中国進出に対する側面支援の方法及び可能性について実際に現地を視察して皮膚感覚で感じたいということが動機でした。

印象的だったのは、武漢市が製鉄の街から自動車工業の街に変貌を遂げつつあり、東風HONDAの工場などは武漢にしっかりと根を下ろそうとしていると感じました。また現地スーパー中百集団の県産品に対する興味の示し方、特に食品加工品などについて素材が有機栽培であるかなど日本での商談と変わらない質問に、予想はしていたものの驚きでした。

上海ジョイフルのプレゼンも出店地のマーケティングから日本と上海を対比したわかりやすいもので必ずや成功するのではという期待感を抱かせました。

市長フォーラムには大分市と武漢市の友好都市としての29年間の歴史と重みを感じずにはられませんでした。

参加者それぞれが自社の課題を持って参加した今回のミッションは来年度迎える武漢市と大分市の友好都市30周年を控えてそれぞれに成果のあるものであったと思います。